

## 北山公園と八国山緑地の成り立ち

1972年(昭和47)6月 (市報47.6.20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を主体とした市民の憩いの場として、現在の八国山緑地西側に当たる場所に「北山自然遊園」が開かれる。特別な施設はなく、狭山丘陵の自然を楽しむための林道、二つの池があった。</li> <li>・現在の北山公園がある場所は水田であった。</li> </ul>
1973年(昭和48)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不動産業者によって北山地区の水田の買収が進められる。</li> </ul>
1974年(昭和49)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北山地区に残された水田地帯を市の都市計画公園にして自然環境を保存するため、市が業者から買収済み用地を買い戻す。残りの土地についても地主の方々と協議を進め用地買収を行う。</li> </ul>
1976年(昭和51)1月 (市報51.2.20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の都市計画公園として「北山公園」を決定。51年度から5ヶ年計画で造成を開始する。水路・水田・水をテーマにした自然公園を目指し、菖蒲、せり、トクサなどの植栽を始める。</li> </ul>
1976年(昭和51)12月 (市報51.12.20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八国山緑地の北側斜面(所沢市)に不動産業者が大規模な宅地分譲開発を計画し、埼玉県の開発許可を待つばかりなことが判明。都、市、市民団体が自然の保全を求める要望書を埼玉県と業者に出すが、開発が進む。</li> </ul>
1977年(昭和52)12月 (市報53.1.20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八国山の山林約37.5ヘクタールが「八国山緑地」として都の都市計画緑地に指定され保存していくこととなる(現在は39.1ヘクタールを指定)。</li> <li>・北山公園は昭和55年の完成を目指し造成中で、この年に花菖蒲約8,000株を植えた。</li> </ul>
1981年(昭和56) (市報56.5.20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花菖蒲は40種3万~3万5千本になり来園者の目を楽しませる。白い花ハスも7~8月に咲く。公園完成まであと数年の予定。</li> </ul>
1982年(昭和57)9月 (市報57.11.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都民の日(10月1日)が制定されて30周年になるのを記念して選定された「新東京百景」に北山公園が選ばれる。この頃は4月はレンゲ、6月花菖蒲、7月花ハス、9月は稲穂の観察と観賞の場であり、花菖蒲は江戸系を主体に77種あった。</li> </ul>
1984年(昭和59)5月 (市報59.5.1) (市報59.7.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北山公園管理事務所棟内に秋津町の武藤家主屋であった「かやぶき民家」が復元され一般公開される。市の有形民俗文化財。また、秋に町田市から大賀ハスの球根を移植。</li> </ul>
1986年(昭和61)6月 (市報61.6.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花菖蒲は江戸系、伊勢系、肥後系の約85種。新東京百景に選ばれて以来、市外からも来園者が増え年々評判になる。</li> </ul>
1989年(平成元)6月 (市報・元.6.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花菖蒲は江戸系、伊勢系、肥後系の約150種。</li> <li>・市制25周年記念に「第1回北山公園菖蒲まつり」が6/1~6/15に開かれる。野点、琴の演奏、野菜即売、銘菓と観光提灯の販売など</li> </ul>
1999年(平成11)6月 11日深夜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かやぶき民家が火災により焼失</li> <li>・花菖蒲は江戸系、伊勢系、肥後系の約150種10万本。</li> </ul>
2008年(平成20)6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花菖蒲は江戸系、伊勢系、肥後系の約170種10万本。「第20回北山公園菖蒲まつり」が6/7~6/22に開かれる。</li> </ul>